

「ICTの導入で箱わな見回り省力化」

東松浦農業振興センター

【背景・取組内容】

玄海町石田集落ではイノシシ対策として箱わなを数台設置していますが、狩猟免許保持者が1名と少なく、箱わなの数を増やすためには毎日の見回りを省力化することが課題でした。

そこで、メーカーの協力のもと、箱わな作動時にメールで通知してくれる捕獲パトロール装置を5台の箱わなに設置し、省力化を図りました。

【得られた成果】

手軽に箱わなの状態を確認できるようになり、箱わなを管理する狩猟免許保持者からは「箱わなを見回る負担が減った。」といった省力化を実感する声があがりました。

また、石田集落での実証結果から、令和4年度には玄海町が町単独事業で捕獲パトロール装置を購入し、玄海町の猟友会のメンバーに貸し出しを実施するなど地域内への波及が見られました。

【見えてきた課題、今後の展望など】

今後は、玄海町の取組みをモデルとして鳥獣害対策の労力負担に悩む近隣町村にも活動を波及し、持続可能な捕獲活動に取り組む集落等の支援を行います。



捕獲パトロール装置の使い方をメーカーと確認

設置場所や罠の状態をスマホで確認可能
(画像はスマホの画面)